

# J-PARC事故からの回復の歩み

2014年10月29日  
J-PARCセンター

J-PARCハドロン実験施設における  
放射性物質漏えい事故検証に係る有識者会議

# 内 容

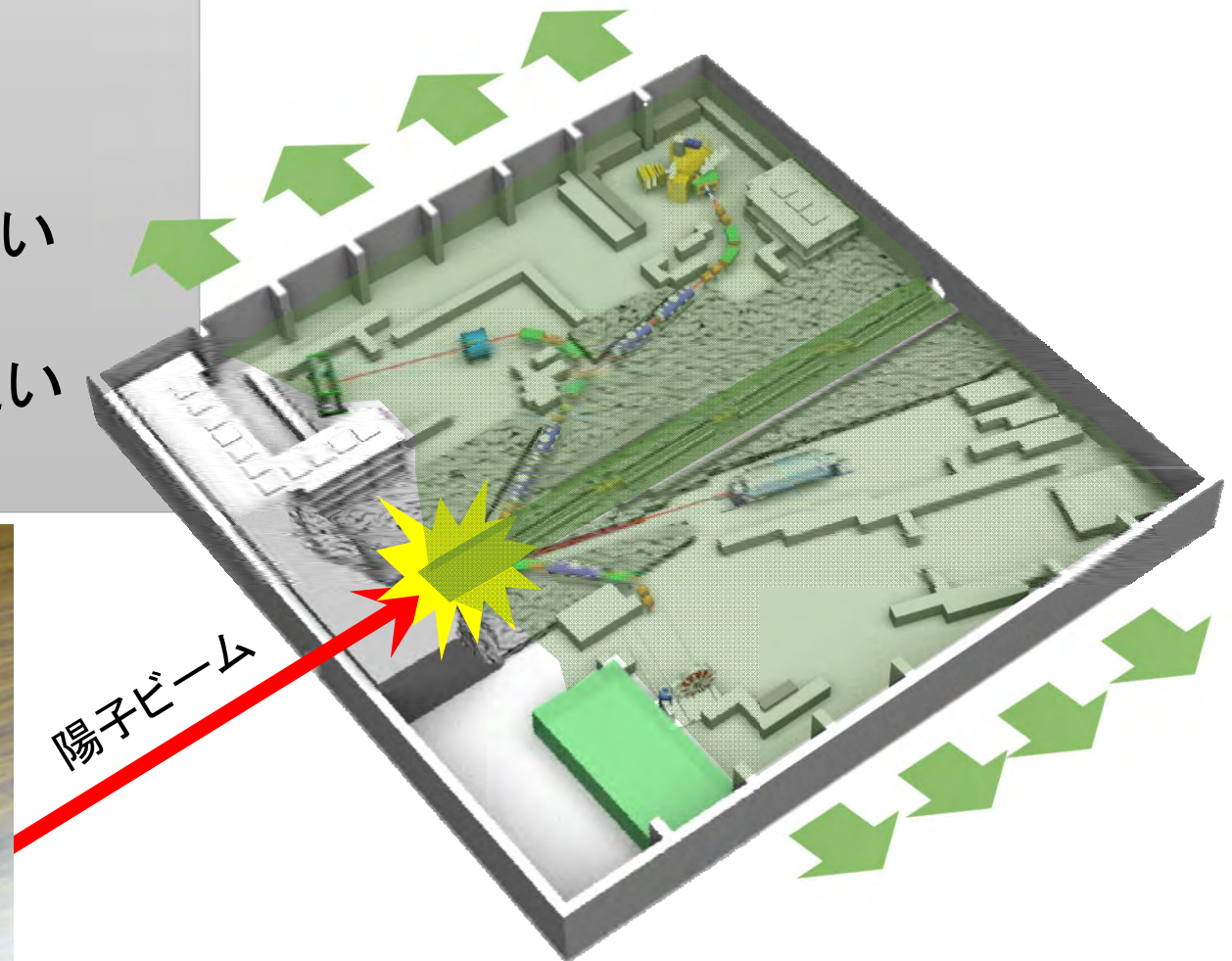
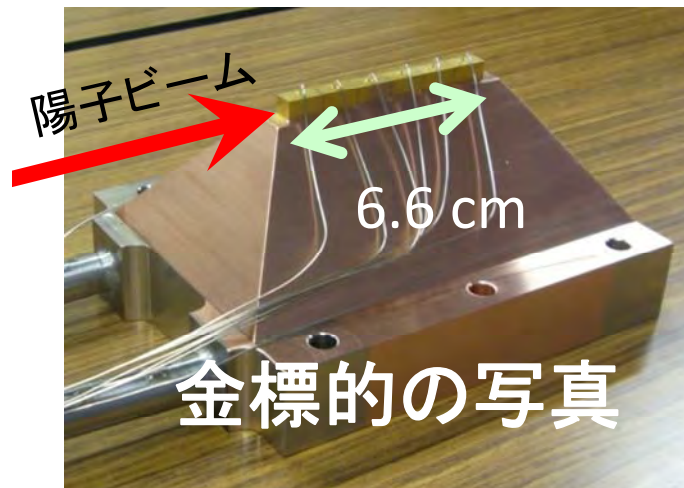
---

- 何が問題だったのか
  - J-PARC センターの取り組み
  - 学んだこと
  - おわりに
- 
- 有識者会議へのチャージ

# ハドロン事故のあらまし

5月23日 11時55分

- 異常なビーム
- 標的が異常な高温に
- 放射性物質の発生
- 実験ホールへの漏えい  
→ 作業者の被ばく
- 実験施設外への漏えい  
→ 管理区域外へ



# 事故の問題点

- ① 放射性物質を施設外及び周辺環境に漏えいさせたこと
- ② 国・自治体等の関係機関への通報連絡及び公表が遅れたこと
- ③ ハドロン実験ホール内で作業者が放射性物質を吸入し内部被ばくしたこと

# 事故によって失ったもの

---

## ①信頼

- \* 地域住民、期待、J-PARC, JAEA, KEK  
研究者、研究者集団、研究機関、  
加速器・原子力・放射線分野

## ②時間

- \* ユーザの機会
- \* 若手研究者、学生のチャレンジの機会

## ③自信

# 事故からの1年 (対外的な事項)

2013.5.23 **ハドロン実験施設事故発生**

5.28 文部科学大臣より KEK及びJAEAへ安全体制緊急総点検等要請、  
有識者会議の設置

5.30～ 茨城県知事、東海村長等、地元自治体から注意等要請

再発防止策の提出

8.12 原子力規制委員会へ法令報告第三報を提出、茨城県・東海村へも提出

9.26 文科大臣へ措置報告書提出

安全性の調査・確認

11.7 原子力規制庁による現地調査

12.5 地元自治体による立入調査

12.13 茨城県原子力安全対策委員会で安全管理体制強化を報告。

12.20 茨城県知事への措置報告書提出

12.24 東海村長がハドロン施設以外の施設の利用再開了承を表明。

12.25 茨城県よりハドロン施設以外の施設の利用再開了承。

2014.1.21 那珂市議会原子力安全対策特別委員会に現状報告

3.7 JAEA東海研究開発センターによる住民懇談会にて現状報告

ハドロン以外の  
施設の安全性を  
確認

# 事故からの1年(J-PARCセンター活動)

- 2013.5.24 J-PARC事故対策本部立ち上げ  
**再生タスクフォース(TF)を編成**: 事故原因追及、  
再発防止検討(2作業チーム)
- 6.13-15 住民説明会(3回)を実施。
- 6.18 **有識者会議の立ち上げ**: 6.21~8.22まで 6回開催。
- 8.27 有識者会議答申書を受け取る。  
再生TFの作業、有識者会議の答申を反映して、法令報告及び  
大臣報告を作成。
- 10.1 **安全管理組織改正を実施**。
- 10.31-11/2 住民説明会(3回)を実施。
- 11.1 **安全関係規程、規則改正を実施**。
- 11.7~ **安全教育を実施**。
- 11.上旬 電源誤作動原因確定。  
安全教育後、MLF及びニュートリノ実験施設の準備作業に着手。
- 12.11 加速器施設安全シンポジウム
- 12.12-13 金標的目視確認、標的観測後、ハドロン改修作業に本格的に着手。
- 2014.1.17 リニアック性能試験にて400 MeV 達成
- 2.17 **物質・生命科学実験施設利用運転再開**
- 5.26 **ニュートリノ実験施設運転再開**

センター構成員が  
一丸となったチーム

安全に関する組  
織及び意識改革

安全が確認されたMLF、  
ニュートリノの再開

# 対応において何が問題だったか

---

\* 様々な情報がありながら判断と対応が遅れた。何故か？

1. 責任者たるべき放射線取扱主任者、施設管理責任者等が不在  
→ 責任体制・指揮系統が不明確
2. 金標的の破損は想定されていなかった  
→ 起こりえる事態のリスクと対策の検討が不足
3. 避難指示等、判断、行動の基準が不明確であった。  
→ 具体的な基準の検討が不十分

全体的には、**安全文化(安全の重要性と安全確保への配慮)**の不足



# 学んだこと

---

- 安全は施設運営の前提である。「安全か研究か」という問題ではない。  
“安全なくして研究なし”
- 安全第一とは
  - 何もチャレンジをしないこと、ではなく
  - チャレンジしながら、人身・機器へのリスクを想定し、備え、コントロールすること
- そのためには事象を管理内、想定内に収めることが重要
  - 起こりえる事象への想像を持ち、
  - 対応策をきちんと考え、実行すること

# 現状と今後の進め方(想定される事項)

下記事項については、J-PARCセンターの想定であり、具体的なスケジュールについては、今後の関係各所との調整等により段階的に決まるものである。

## ➤再発防止策を踏まえた使用の許可(9月9日)

## ➤再発防止策の確認

- ・ J-PARC ハドロン実験施設における放射性物質漏えい事故検証に係る  
有識者会議(10月29日)
- ・ 放射線事故想定訓練(原科研との合同訓練)(11月25日)

## ➤再発防止策の完了

- ・ 茨城県、東海村、隣接市、隣々接市町への報告・確認
- ・ 住民への説明

## ➤施設検査受検

放射線障害防止法に基づく施設検査

ハドロン施設の利用運転再開は、上記事項の対応を経た上で行う。

# おわりに

---

失ったもの

得たもの

①信頼

• 強いチームワーク

②時間



• より安全な実験環境

③自信

• 振り返りを大切と思う心

まだ道半ば、完全な信頼回復は安全の実践で

# 有識者会議へのチャージ

---

- 事故の反省に基づき実施してきた改修作業
- J-PARC安全管理体制の再構築
- 再生への今後の取り組み

以上3点について、  
妥当性の検証と評価を御願い致します。